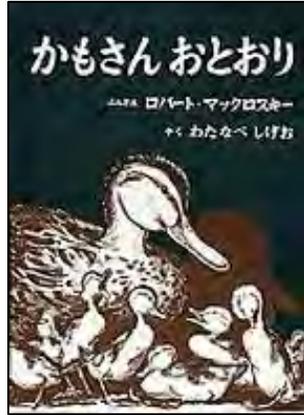


短い話の絵本では物足りない、でも自分で物語を読むのは難しい。そんな子どもにぴったりの本を紹介します。読んでもらうことで、自分で読むには難しい長さの本でも十分楽しめます。



かもさんおとおり

ロバート・マックロスキー / ぶん・え
わたなべしげお / やく
福音館書店

かものマラードさん夫婦は、川の中州で8つの卵をかえしました。そしてマラードおくさんは、8羽の子がもにもぐり方、歩き方を教えると、だんなさんの待つ公園へと歩いて行くことにしました。

優しいおまわりさんの手を借りて、町中を堂々と歩く姿はなんともユーモラス。巻末にはボストンの地図がついており、お引越しルートを辿ることもできます。

エパミナダス 愛蔵版おはなしのろうそく1

東京子ども図書館 / 編 東京子ども図書館



日本や世界のお話がたくさん入った童話集。愛蔵版には、小冊子版おはなしのろうそくの2冊分が、さし絵を増やして収録されています。

現在、愛蔵版は1～10まで、小冊子版は1～27まで出ています。

こねこのぴっち

ハンス・フィッシャー / 文・絵
石井桃子 / 訳 岩波書店



ぞうのババール

ジャン・ド・ブリュノフ / さく
やがわすみこ / やく 評論社



あおい目のこねこ

エゴン・マチーセン / さく・え
せたていじ / やく 福音館書店



「子どもとお母さんのおはなし」シリーズには『三つ子のこぶた』『けんた・うさぎ』『こぎつねコンチ』があります。どれから読んで楽しめます。

3冊とも 中川李枝子 / さく 山脇百合子 / え のら書店